

## ○第一部「本学におけるアクティブ・ラーニング授業の実践例1」

### 当日の配付資料

2018.03.19「文系教員によるAL授業の試み」@教育未来館3階多目的ホール

### 本学におけるアクティブ・ラーニング授業の実践例1

国語教育講座 砂川誠司

#### ○私なりのアクティブ・ラーニングの理解

- 学生が理解したこと（理論）を表現させること（実践）で、学んでいるという雰囲気をつくること

#### ○私の授業設計

- 学生の理論を知る
- 教育内容と接合する
- 学生に表現させる

#### ○実践例1

- 国語科研究AⅡ（1年生前期）
- 初学者の理論を知り、教育内容に接合する
- Google Formの利用 → 簡易的分析 → あらかじめ用意していた授業につなげる

#### ○実践例2

- 国語科教育CⅢ（3年生後期）
- 学生に表現させ、理解を深めさせる
- 評価問題の作成&発表
- 朗読パフォーマンスの評価

#### ○実践例3

- 国語科研究BⅡ（1年生後期）
- 学生に表現させ、理解を深めさせる
- ナレーションづくり&発表

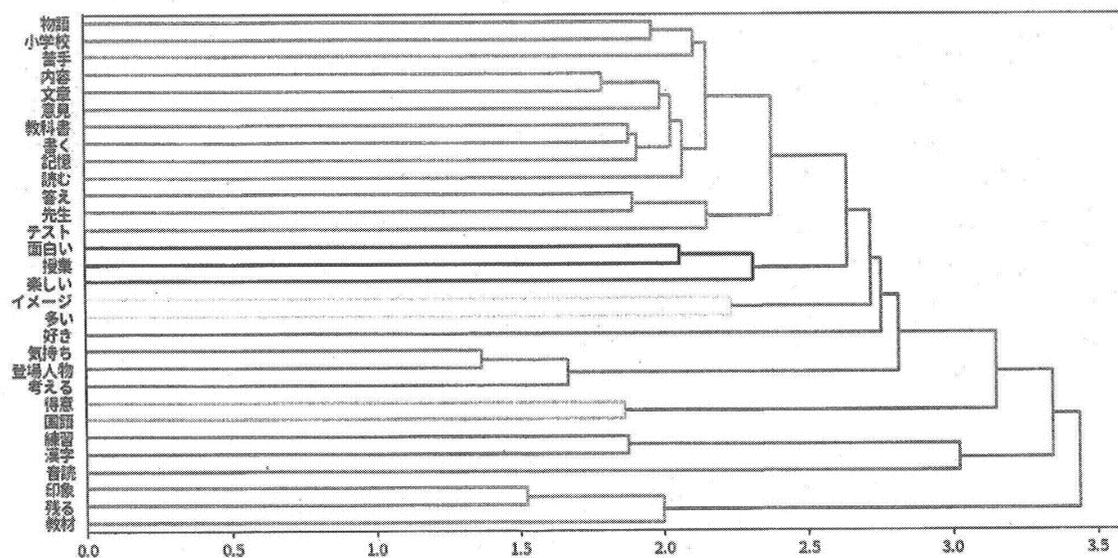
#### ○現在の悩み





品 階層的クラスタリング(β版)

文章中での出現傾向が似た単語をまとまりとしてとらえられるよう樹形図で表示したものです。グループは色分けして表示しています。



《問題用紙》  
次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

著作権の関係上  
本文は削除

(出典『住まい方の演出』を書き改めたもの)

問一、筆者が傍線部1のように考えるのはなぜか。

問二、傍線部2の「それ」とは何を示しているか。

問三、傍線部3について、その主な理由を二つ述べなさい。

問四、傍線部4の「これ」とは何を示しているか。

問五、(1)傍線部5「別の解釈」は何を意味しているか。括弧に当てはまる言葉を考えて書きなさい。

外来者を(①)とみなし、(②)する。

(2) (1)と対になる表現を抜き出しなさい。

問六、傍線部6「直接的な闘争」と同じ意味の表現を二十五字で抜き出しなさい。

問七、傍線部7について、本文から読み取れる「ヨーロッパ的な考え方」をア～オからすべて選びなさい。

ア 排他的 イ 受容的 ウ 閉鎖的 エ 解放的 オ 攻撃的 カ 消極的

問八、(1)傍線部8「玄開口からかなり離れて、ドアが開かれるのを待っている」とあるが、それはなぜか。

(2) 日本で外開きの玄開扉が一般化したことについて、筆者が独自に考えた理由は何だろうか。(1)を踏まえて、五十字以内で述べなさい。

□ 『玄関扉』の本文を読んで、以下の問いに答えなさい。

著作権の関係上  
本文は削除

(出典『住まい方の演出』を書き改めたもの)

問一、傍線部1について、その主な理由を「日本人は……」の書き出しに続けて二つ述べなさい。

問二、次の文は、本文の一部です。この文が入る正しい箇所を本文中の□ア□オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

□ア □オ  
というのは、内開きを「いらっしやいませ。」と解するのは、ある生活場面における一つの解釈であって、場面を変えれば別の解釈も成り立つと思うからだ。

問三、□1に当てはまる接続詞を次のア〜エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、だから イ、しかも ウ、なぜなら エ、一方

問四、本文の構造を正しく説明しているものを次のア〜エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、まず外開きのドアと内開きのドアについて一般論を述べ、その後筆者独自の感覚や考え方に基ついた論を展開している。

イ、まず外開きのドアと内開きのドアについて筆者独自の論を展開した上で、一般論を述べて筆者の論の裏付けとしている。

ウ、まず外開きのドアと内開きのドアについてメリットとデメリットをそれぞれ列挙した後、それらを総括するように筆者独自の論を展開している。

エ、まず外開きのドアと内開きのドアの抽象的な比較を行い、そこで挙げられた共通点について筆者独自の論を展開している。

二 次の文章は、筆者が本文の終わりに書き添えたものである。この文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

あとがき

(前略)

このような姿勢で書かれた本書は、これまた前著と同様に、これからマイホームを建てようとしておられる方に直接役立つハウツー的テキストでは決してない。

(中略)

しかし、具体的内容は別としてその基本的姿勢、つまり「住まいは人生観の表現だ」ということだけでも共感してくださる方がいくらかでも増えていくとすれば、そうした「住まいをつくる心構え」の変革が日本の住宅の現状を幾分かでも真の豊かさへと動かす契機になるのではないかと思ひ、本書もそのような読者に出会うことを願っている。

問五、①本文は、筆者のどのような意図で書かれたことが分かりますか。( )に当てはまる言葉をあとがきから十字で抜き出さない。

本書は家の建て方を教える本ではなく、「( )」の変革を目指して書かれている。

②あなたは①の筆者の意図が本文から読み取れると思いますか。自分の立場を選び、その理由を書きなさい。

著作権の関係上  
本文は削除

## ○第二部「本学におけるアクティブ・ラーニング授業の実践例2」

### 当日の配付資料

愛知教育大学FD集会 2018. 3. 19 13:30~14:40  
 文系教員によるALの試み @教育未来館3F 多目的ホール

【第二部 本学におけるAL授業の実践例2】

**生活科選修でめざす  
 アクティブラーニング**

～チーム明治村プロジェクトで取り組んだ  
 社会見学で使えるPR動画作成を中心に～

**生活科教育講座  
 加納 誠司**

1

はじめに(1)

○平成29年4月 愛知教育大学初等教育  
 養成課程に“生活科選修”開設、  
 その入試の中身とは？

推薦Bにプレゼン面接を課す(定員5名)

能動的な学修者 課せられた課題は自分自身

チャレンジ精神 自分を表現する力

➡求めるのは自分の良さや可能性を發揮し  
 4年後に向けて自分を拓いていける若者

※そのためには生活科選修の学びを  
 アクティブに展開することは必須！！

2

はじめに(2)

Q そもそも生活科って文系科目なの？

生活科選修1期生の中学校免許取得希望科目

A 生活科はすべての学び  
 の礎を築く教科である

そもそも生活科の学びはアクティブ・ラーニング

3

実践例1 生活科教育概論Ⅰ、Ⅱ  
 自然体験的な場面を取り入れる

花(フウセンカズラ)や野菜(イチゴ)の栽培



4

実践例2 生活科研究AⅡ  
 愛教大とその周辺の環境を生かした四季を感じる授業

春は季節とともに出会ったことの喜びを感じる



5

実践例2 初年次演習  
 愛教大とその周辺の環境を生かした四季を感じる授業

これも春 洲原公園、洲原ロッジで自然体験学習

先生や大学院生の先輩と協力して飯盒炊さん

4年間、安心して学び合っていける人間関係を築く



仲間と協力してカレーライスづくり

6

実践例2 生活科教育概論Ⅱ  
 愛教大とその周辺の環境を生かした四季を感じる授業  
 秋は活動の幅を広げ自分とのかかわりをmapに表現



7

実践例2 生活科教育概論Ⅱ  
 愛教大とその周辺の環境を生かした四季を感じる授業  
 冬の足あととは大人の事情で大学案内の撮影

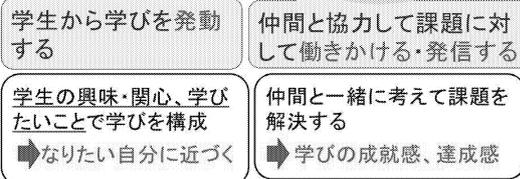


楽しい体験学習だけでは  
 アクティブ・ラーニングとは言えない！！

8

「主体的・対話的で深い学び」で考える  
 小中高大でアクティブ・ラーニングを充実させる

☞アクティブ・ラーニングを実現させる3つの視点  
 主体的・対話的で深い学び



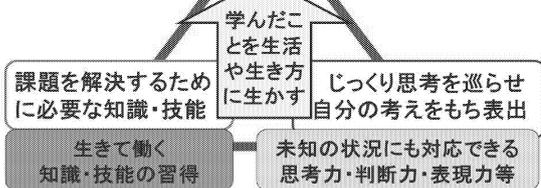
9

育成すべき資質・能力の三つの柱と重ねて考える

学んだことの生活化、社会化、自己実現

学びを人生や社会に生かそうとする  
 「学びに向かう力・人間性」の涵養

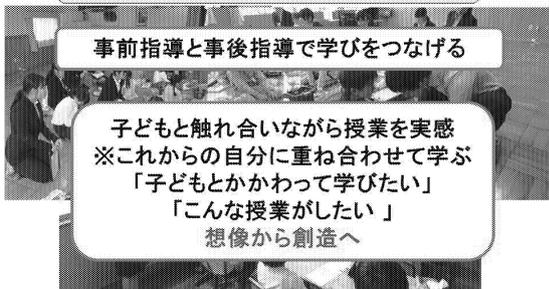
どのように子どもや教材づくりに関わり、  
 になりたい教師像に近づくか



10

実践例3 生活科教育概論Ⅰ、生活科研究AⅡ  
 学校現場で子ども理解、将来の自分を想像する

富士松北小学校で生活科授業の参観



事前指導と事後指導で学びをつなげる

子どもと触れ合いながら授業を実感  
 ※これからの自分に重ね合わせて学ぶ  
 「子どもとかかわって学びたい」  
 「こんな授業がしたい」  
 想像から創造へ

11

実践例4 生活科教育概論Ⅰ、Ⅱ  
 小学校社会見学で活用できる明治村PR動画

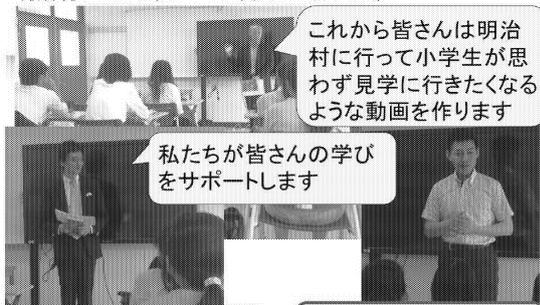
民間、博物館、小学校を巻き込みチームで挑んだ  
 明治村プロジェクト

プロジェクトの流れ(2017. 5. 9~2017. 10. 6)

- 社会で学ぶ...博物館「明治村」を見学(計3回)
- 主体的に学ぶ...伝えたいテーマに合わせ教材研究
- 創造的に学ぶ...明治村の魅力を伝える動画撮影  
撮影した動画を編集(ICT機器の活用)
- 現場で学ぶ...実際に小学校6年生の社会見学に  
同行し明治村の魅力を伝える

12

明治村プロジェクト1 ガイダンス(5. 29)



これから皆さんは明治村に行って小学生が思わず見学に行きたくするような動画を作ります

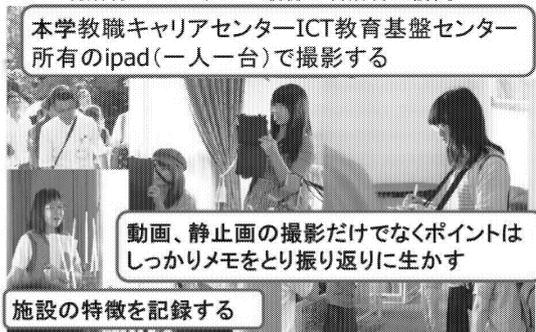
私たちが皆さんの学びをサポートします

ナジックアイサポート  
営業企画 林智明さん

Universal Future Planning  
代表 吉川直樹さん

13

明治村プロジェクト2 最初の明治村の訪問



本学教職キャリアセンターICT教育基盤センター所有のipad(一人一台)で撮影する

動画、静止画の撮影だけでなくポイントはしっかりメモをとり振り返りに生かす

施設の特徴を記録する

明治村を代表するような施設で学芸員の話聞く

14

明治村プロジェクト3 動画撮影と編集を学ぶ(6. 22)  
※生活科研究AⅡ(四季を感じる授業)とコラボ

愛教大の夏を紹介する動画撮影および編集



教室に戻って編集

発表したものをみんなで評価

学内で夏を感じるものを撮影

15

明治村プロジェクト4 明治村の魅力が伝わるための  
テーマ設定とPR動画の構想

- グループ3人の計4グループで構成
- 明治村と相談し教師がある程度テーマを絞ったものを提示し学生に選ばせる
  - 学校、コミュニケーション、キリスト教、くらしの変化 の4つのコースに決定
- テーマに沿って教材研究
  - 6年社会科歴史分野の教科書、資料集、自身で集めた資料を中心に

16

明治村プロジェクト4 教材研究の様子



知識と思考を往還し(内的思考を活性化)動画に表現する

明治村の魅力伝えるためには明治時代の歴史を知っていないといけない(知識の習得)

伝える内容を精選し3分で何を伝えるのかグループで検討(対話を通し協働的に学ぶ)

17

明治村プロジェクト5 2回目の明治村訪問(7. 19)  
6年生に明治村の魅力伝える動画の撮影



18

明治村プロジェクト6 撮影した動画を編集(8. 5、6)

グループのメンバー1人多いような？ 井ヶ谷荘に泊まって合宿



チーム明治村プロジェクトのメンバーがグループに一人スーパーアドバイザーとしてついてきています

19

明治村プロジェクト6 撮影した動画を編集(8. 5、6)

編集した動画をプレゼン

それぞれの立場のチーム明治村プロジェクトで評価



20

明治村プロジェクト0 完成した動画を活用するための教師支援(アクティブ・ラーニングの舞台裏)

○活用してくれる小学校の選抜、そして交渉

稲沢市立大里西小学校6年生に決定！！

○6年生担任教師を中心に互恵性のある打ち合わせ

➡ 明治時代の単元の流れを優先  
子どもと学生の効果的な交流の在り方  
※一グループに一人の学生がつく

○6年生に動画の視聴とコース選択  
(加納と明治村学芸員とのTT)

21

明治村プロジェクト7 最後の明治村訪問(10. 6)

実際の社会見学に同行、学習のサポート

5カ月にわたってイメージしてきた学びを実行する



22

明治村プロジェクト7 最後の明治村訪問(10. 6)

実際の社会見学に同行、学習のサポート



時間とともに学生と子どもの距離は縮まっていく

23

「深い学び」を実現する！ どうしたら学びは深くなるのか？

学びと学びがつながる  
自分の生活や生き方につながると深い

➡ 学んできた知識や技能を発揮させる  
社会の中で現実的に学ぶ(Authentic Learning)  
長いスパンで学ぶ(探究的に学ぶ)

➡ ALの定義を逆に読む  
学びを深めるには  
主体的・対話的  
(能動的・協働的)  
に学ぶ



カレー作りのときから  
GTと出会っている

24

学びに向かう力を意識して深い学びを4年間つなげる

Q 学びに向かう力は現行の評価の観点、  
関心・意欲・態度と何がちがうのか？

A 点ではなく線で(4年間の学びのプロセスで)  
学生の姿を評価する

興味～関心～意欲～態度～生活に生かす

学生にとって本当に  
学びたいこと

じっくりしっかり人間性  
まで高める『涵養』  
将来の自分につながる

学びは終わらせない、4年間さらにはそれ以降  
の学びにつなげることを意識する

25

実践例2のおまけ 生活科教育概論Ⅱ  
愛教大とその周辺の環境を生かした四季を感じる授業

秋は活動の幅を広げ自分とのかかわりをmapに表現



音声言語も文字言語も表現能力は確実にUP↑

26

生活科選修元年 取組の成果

チーム明治村プロジェクトの有効性

- チームで学生の学びを保障し育ちを支える  
多様な専門性をもった大人とかがわったほう  
が学生は成長する
- 学生同士の学びの共有  
チームにならざるを得ない状況をつくる  
教師と学生、教師間とGTとの共有も
- 産学連携を模索しながら実現  
**Win Win**の関係を築きめざす方向を共有する

27

生活科選修元年 取組の課題と今後の方向性  
アクティラーニングをいかに  
大学カリキュラムに位置付けるか！！

- アクティブ・ラーニングの内容と方法を精選する  
他の授業内容との(講座を越えての)連携  
さらに主体的に学べるような授業構想
  - 適した学年と組織の体制  
教師と学生の負担を軽減  
チームをさらに強化
- ※カリキュラムのスリム化は必須

28

おわりに  
学生も教師もチーム全体で授業を楽しまなければ  
アクティブには学べない



29